

流通経済大学 数理・データサイエンス・A | 教育プログラム
(リテラシーレベル)

自己点検・評価 (令和5年度)

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全学部の1学年の必修科目で構成されている。令和5年度のプログラムの履修者数は1253名、履修率は全学生に対して25%である。 ・全学共通の1学年の必修科目でプログラムを構成しているため、年次進行により、令和8年度以降、プログラムの履修率は100%になる。 ・構成する2科目を修得してプログラムを修了した学生数は1027名であり、履修者の内の82%であった。
学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・情報・データサイエンス教育推進委員会では、学期の初めと学期の終わりにITスキルチェック(確認テスト)を実施しており、これらの比較により、客観的な学修成果を把握している。 ・情報・データサイエンス教育推進委員会は、成績分布システムにより、クラスごとの成績分布および修得者数、修得率を把握しており、これらの学修状況を担当教員にフィードバックし、授業改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<ul style="list-style-type: none"> ・FD・SD委員会は、学期毎に教育プログラム科目である情報リテラシー演習およびデータリテラシー演習を含む全科目の授業アンケートを実施している。情報・データサイエンス教育推進委員会は、授業アンケートの結果を理解度の把握と授業改善に活用している。 ・当該2科目の授業アンケートによると、2023年度では、2科目について到達目標を達成できていると考える学生の割合は63%と65%であり、達成できていないと考える学生の割合は5%と6%であった。

<p>学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度</p>	<p>全学共通の1学年の必修科目でプログラムを構成しているため、学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨は必要ない。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>全学共通の1学年の必修科目でプログラムを構成しているため、年次進行により令和8年度以降は全学生が履修する。</p>
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの修了者の卒業生がいないため、現時点では、進路、活躍状況、企業等の評価を把握することはできていない。 ・就職キャリア支援センターでは、卒業生アンケート調査および卒業生の就職等、進路先の意見聴取を行っている。プログラムの修了者の卒業時に、これらの調査に教育プログラムについての項目を加えることにより、教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価をすることを検討している。
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、プログラム修了者が卒業していないため、プログラム修了者に対する産業界からの意見等を把握できていない。 ・地元企業、共同研究企業および本学のシンポジウム等に参加している企業と連携し、産業界からの教育プログラム内容・手法等に対する意見を聴取し、プログラムの改善を行うことを検討している。
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある様々なAIの具体的な事例を紹介することや生成系AIを実際に利用することで、学ぶ楽しさや学ぶ意義を理解させる工夫をしている。 ・情報リテラシー演習およびデータリテラシー演習に関して、授業アンケートにより学生の学修状況を分析している。2023年度では、当該2科目について、授業に参加するモチベーションがあった学生の割合が68%と74%、モチベーションがなかった学生の割合が5%と7%であり、授業における学ぶ楽しさや学ぶ意義を理解させる工夫が成果を上げている。

<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<ul style="list-style-type: none">・ AI・データサイエンスに関する身近なトピックを紹介する等、学生が興味を持つ内容を中心としている。・ 一部については統一した動画を作成し授業時間内で動画を配信するとともに、ビデオオンデマンド配信も行い、教育水準を維持している。・ 情報リテラシー演習およびデータリテラシー演習について、全クラスの統一のシラバスを作成し、教育内容や評価の統一を行っている。・ シラバスとは別に授業計画書を作成しており、担当教員に授業計画書を配布し、教育内容の水準の統一化を図っている。・ 情報・データサイエンス教育推進委員会にて、授業評価アンケートや修学状況をもとに、分かりやすい授業となるよう、講義内容、実施方法および授業計画書を継続的に改善している。
---	--